

【学校経営計画】

1 学校教育目標

生き生き にこにこ つながって

2 めざす学校像、幼児・児童・生徒像、教職員像、保護者・地域像

○学校像	学び合い育ち合う笑顔いっぱいの学校	
○児童像	・助け合う子 ・考える子 ・やりぬく子	
○教職員像	○意欲を持って精力的に支援・指導する教師 ○「報告・連絡・相談」を大事にし、組織の一員として力を発揮する教師 ○分掌責任者としての自覚を持ち、具体的な改善に積極的な教師	
○保護者・地域像	○子どものために教師の良きパートナーとして動く保護者 ○地域コーディネーターを核にして学校教育を積極的に支援し、協同する地域	

3 学校の現状

- ・ 全体的に落ち着いた学校生活が成立している。しかし、基本的な生活習慣や学習習慣の育成不足、規範意識や社会性の欠如、体力不足等の課題が見えている。
- ・ 児童一人ひとりの考えや思いが十分に出しきれているとは言えず、真の仲間づくりを進める上でも、「何でも言える」関係を構築し、児童間のつながりを太くしていく必要がある。
- ・ 22年度、児童・保護者の満足度は89%台であった。学家の意思疎通が図られ、いつでも相談に乗れるよきパートナーとしての意識化が高まりつつある。
- ・ 職員間の意思疎通は、十分図られており、問題解決に向けても組織としての動きは定着している。
- ・ 地域の学校支援体制が定着しつつある。保護者ととも、学校のよきパートナーとして、更なる支援体制の充実に期待する。

本年度の改善方策

- ・ 現職教育の研究の柱「わかる・できる・かかわり合う」授業を目指し、体づくりに向けての取り組みも含めて、言語力・表現力・学習意欲・体力の向上を図る。
- ・ 児童・保護者の悩みや相談事について、今まで以上に「誠意とスピード・タイミング」を重要視し、学校と家庭の連携を強化する。その中で、家庭へ協力の発信をし、学校ですべきこと、家庭ですべきことの共通理解を図る。
- ・ 職員間の「ほう・れん・そう」をさらに充実させ、組織としての動きをこれからも維持し、学校力を発揮する。
- ・ 地域からの支援内容を吟味し、児童の学力向上と職員の教育活動に寄与する形を作り上げる。
- ・ リスク管理として、改めて地震や災害時の連絡網やガイドラインを点検、見直す。

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		20	21	22	23	24
1	互いに思いや考えを出し合い、受止め合う子どもの育成に取り組む		○	○	○	
2	児童保護者の総合的満足度を高めるために取り組む		○	○	○	
3	教職員間の意思疎通を十分に行い、組織力を高めるために取り組む		○	○	○	

5 平成23年度の重点目標

重点的な取組事項－1 互いに思いや考えを出し合い、受止め合う子どもの育成に取り組む

A 今年度の成果目標

児童・教職員アンケートで、体づくりを含め、思いを出し合い受止め合って、自尊感情とつながりを育めた児童が80%以上になることを目指す

B 目標実現に向けた取組

具体的な方策

- ① 授業を振り返り、友達の考えと比べて意見や感想を言ったり書いたりする協同学習に取り組む
- ② 学級の中で自分の思いが出せ、相手の思いを共有でき、友達とのつながりを深めることができる人権学習の創造に取り組む
- ③ 体育・食・健康教育を関連づけ、自分の体づくりへの意欲・関心と実践力を高める学習の充実に取り組む。

重点的な取組事項－2 児童・保護者の総合的満足度の向上を目指す

A 今年度の成果目標

児童・保護者のアンケート結果で、総合的満足度が80%以上得られることを目指す

B 目標実現に向けた取組

具体的な方策

- ① 児童にとっても保護者にとっても、有意義で特色のある、楽しい教育活動を創造する
- ② 児童・保護者の悩みや相談事に、きめ細かくスピード・タイミングを重視した誠意ある対応に努める
- ③ 児童のことで、「うれしいこと」をきめ細かに保護者に伝え、意思疎通を図り、保護者の自尊感情を高めるための取り組みに力を注ぐ

重点的な取組事項－3 学校・学年組織力の向上を図る

A 今年度の成果目標

自己評価で、80%以上が教職員間での意思疎通を図れたという結果を目指す

B 目標実現に向けた取組

具体的な方策

- ① 児童のことで、保護者のことで、事が起さればまずは学年団で連絡相談をし、低中高団や分掌担当、管理職への迅速な報告とともに、学校組織としての動きをつくる
- ② リスクマネージメントの周知を図り、危機管理意識を高く持って、常に複数で対応し的確な判断のもと、動きをつくる
- ③ 全職員で協議をし、決まったことは全職員で実行にうつす